

「意見を言わないのなら会議に出るな」と言われ、意見を言い続けることを求められてきた。

海外では意見を言わないと存在しないこととされてしまうことが多い。

テレワークで電子会議を行うようになったコロナ禍のいま、画面に映っているだけの必要性が低下しているのではないか。

意見は、「特定の事象・対象あるいは状況に関する信念ないし判断。態度の言語的表明。意見は一般的に論争的問題をめぐって形成されるため、異なる諸意見の相互作用や抗争が意見形成上の重要な契機であることに留意されなければならない(『社会学小辞典』有斐閣)とのこと。

意見を表明しあうことは、化学的変化をもたらす。目的と本質をとらまえて粘り強く意見を表明しあうと、最適解(現状から最適と考えられる解答)が降りてくる。自身で事前に想定していなかったところに降りてきたりする。だからおもしろい。

是なら是と。非なら非と。何かひっかかるなら何がひっかかると。意見を表明しあい相互理解を深めつつ最適解を求める営みを日本人はもっと持っている筈だ。「私は」を主語にして言うことは間違ったことじゃない。あなたの存在を否定しているのではない。身構えなくていい。正解ではなく、最適解が得られるのだから。

会議の場を、事前に資料を読み込んでおいた上で、意見を表明しあい最適解を求める創造的な行為の場にしていけば、労働生産性はもっと上がる筈だ。AI時代のいま、予定調和の代わり映えのしない行為ではなく、人間だからこそできる営みにひたろう。